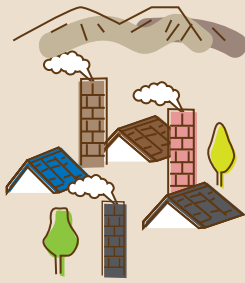


ひと言 コラム

「瀬戸へ行かんでどこへ行く」

近代において、瀬戸で石炭窯が採用されて以降、まちでは煙突が乱立し、吹き出す黒煙でスズメすら真っ黒だったといわれました。陶土で白く濁った瀬戸川は、瀬戸の窯業繁栄の証とも称されました。この時代、分業体制の進んだ瀬戸の陶磁器生産は、「ロクロ師」・「絵付師」・「焼き手」をはじめ、雑用をこなす「モロ衆」など多様な職人で成り立ち、多くの人が働き口を求めて瀬戸にやって来ました。「瀬戸へ行かんでどこへ行く」とは、「瀬戸に行けば何かしら稼ぎ口がある」ということを意味し、かつて繁栄を極め、活気にみちた瀬戸のまちの風景を思い起こさせる言葉なのです。



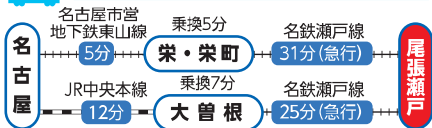
1000年以上の歴史を誇る せとものまち 陶都・瀬戸

愛知県瀬戸市は、名古屋市の北東約20kmに位置し、周囲を標高100~300mの小高い山々に囲まれ、気候も温暖なまちです。

良質で豊富な陶土に恵まれ、瀬戸市で焼かれるやきものは、「せともの」というやきものの代名詞として日本のみならず、世界の人々に知られるようになりました。先人たちは新しい技術や文化を柔軟に取り入れ、「せとものまち」を発展させてきました。

先人たちより引き継がれてきた「歴史」「伝統」「文化」、そして豊かな「自然」が、今もなお、瀬戸の暮らしに息づいています。

電車でお越しになる場合

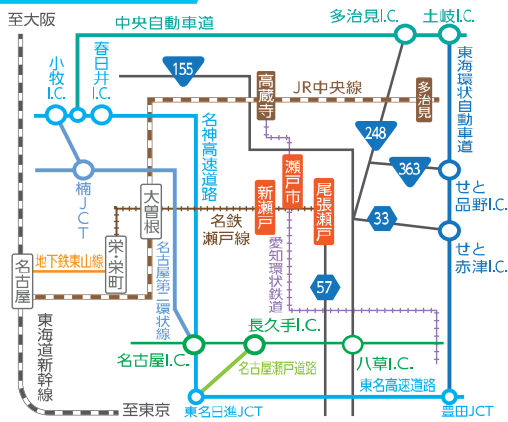


高蔵寺、岡崎方面からは愛知環状鉄道利用、瀬戸市駅下車、名鉄瀬戸線に乗り換えます。

お車でお越しになる場合

- 東海環状自動車道 せと赤津I.C.から(約10分)
- 東海環状自動車道 せと品野I.C.から(約15分)
- 名古屋瀬戸道路 長久手I.C. (東名高速道路日進JCT経由)から(約15分)

瀬戸市へのアクセス



問い合わせ先

瀬戸市文化課
TEL:0561-84-1093 FAX:0561-85-0415
〒489-0884 愛知県瀬戸市西茨町113-3
(瀬戸市文化センター内)

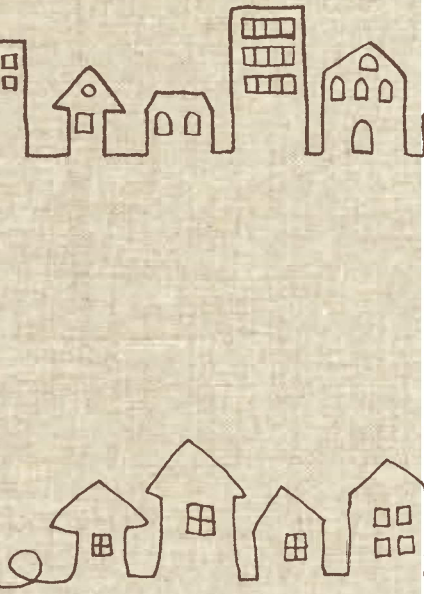
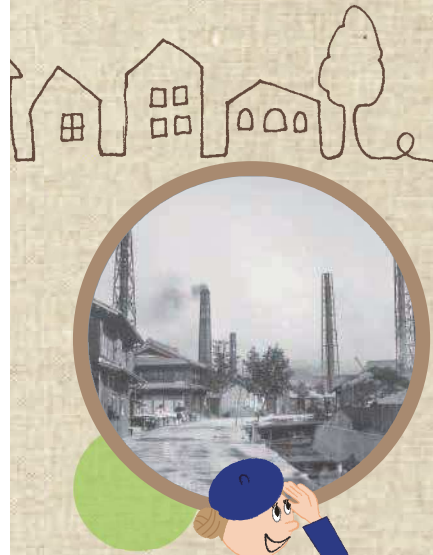


このガイドマップは、歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業(文化芸術振興費補助金)を受けて作成しています。



日本遺産のまち瀬戸市
瀬戸を知る
テーマ別ガイド③

歴史ある 建物を巡るコース



近代瀬戸の風景

明治38(1905)年に、矢田～瀬戸間で瀬戸自動鉄道(後に瀬戸電気鉄道、現:名鉄瀬戸線)が開通すると、現在の尾張瀬戸駅周辺はやくもの産業だけでなく、商業・金融の中心地へと発展していきます。瀬戸川北岸(北新谷地区)の丘陵には、窯屋の居宅や陶磁器卸問屋が建ち並び、深川神社門前などには商店街が軒を連ね、賑わいをみせていました。現在でも北新谷地区には、そこで居を構えた有力窯屋や資本家・卸問屋などの商店・居宅・工場が一部残され、当時の隆盛を偲ぶことができます。

煙突がたくさん立ち並ぶ!

同じほころ

1 中心市街地遠望 (西から)

昭和12(1937)年頃の中心市街地。瀬戸陶磁器会館(現:愛知県陶磁器工業協同組合)の屋上から撮影した写真です。昭和初期に広く普及した石炭窯の煙突からは黒煙が舞い上がり、黒くかすんだまち全体が、瀬戸窯業の盛況ぶりを物語っています。

2 尾張瀬戸駅

昭和6(1931)年頃の尾張瀬戸駅。この駅舎は大正時代から平成13(2001)年まで使われました。現在は瀬戸蔵ミュージアムに一部復元展示されています。



3 深川神社前

昭和初期ごろの深川神社前の様子。毎月15日と月末がやくもの職人の給料日で、翌日が休日であったことから、当時瀬戸を代表する歓楽街であった参道周辺は人で溢れかえっていました。



4 茶屋町

深川神社参道の西側にあたる深川町の一角。写真中央、路地の奥には映画などを上映した「深川館」が写っています。深川館となったのは昭和3(1928)年からで、それ以前は芝居などを興行した「陶元座」がありました。



5 せと末広町商店街

昭和初期の末広町商店街の様子です。当時は現在のようアーケードはかけられていませんでした。



6 蔵所町付近

昭和13(1938)年の蔵所町周辺の様子です。写真右手にはかつてこの場所にあった市役所が写り、その右隣には現在新世紀工芸館の展示棟となっている、瀬戸陶磁器陳列館などが並んでいます。現在この場所は瀬戸蔵となっています。



7 煙突が立ち並ぶ 蛭子橋付近

現在の宮前駐車場から200mほど東に入ったところの風景。昭和10(1935)年頃のもので、石炭窯の煙突から、当時窯屋があったことがわかりますが、現在は住宅街となっています。





1

丸一国府商店

廃藩置県後の旧犬山藩の家臣が、明治5(1872)年に名古屋市の犬山藩で創業した商店。陶器販売拡大のため、明治20(1887)年に瀬戸市朝日町に仕入部を開設し、その後の瀬戸自動鉄道が開業したのを契機に、明治44(1911)年に現在の望楼を載せた建物が完成しました。望楼は、犬山城の天守閣を模したとも伝えられ、接待の場として使用されました。当時、木造2階建ての建築が建ち並ぶ瀬戸川沿いの中でもひと際目立つ存在で、現在も昔の姿を残して陶磁器販売を行っており、往時の様子を伝える景観の核となっています。

2

古民家 久米邸

近代の瀬戸窯業を代表する窯屋であった2代川本樹吉家の別邸。資料などから、現存している主屋と土蔵は明治41(1908)年の建造だと考えられます。明治後期から戦後までの建築様式を残す貴重な建物で、平成16(2004)年からは「古民家 久米邸」としてカフェや雑貨店として活用されています。

カフェ営業時間 午前11時～午後5時(夏季は午後6時)
定休日 毎週火・水曜日



3

無風庵

近代美術工芸家である藤井達吉が工芸運動を進め、若手作家育成のために私財を投じて西加茂郡小原村(現在の豊田市北大野町)に建築した茅葺入母屋造の建物です。昭和27(1952)年には藤井達吉が開いた工芸村が解散となりますが、共同生活をしてきた瀬戸の陶芸家の尽力によって、達吉の雅号である「無風」に由来した「無風庵」という名称で瀬戸市へ寄贈・移築されました。平成13(2001)年に復元・改修され、現在はギャラリー兼休憩所となっています。

開館時間 午前10時～午後3時
休館日 毎週水曜日 入館料 無料

4

旧山繁商店(国登録文化財)

創業は明治19～20(1886～1887)年頃といわれ、その後大正、昭和を通じて問屋業を営みました。現在、その広い敷地内には、明治22(1889)年に建てられ、内外の要人の接待の舞台となった「離れ」や、「土蔵」・「旧事務所」・「新小屋」のほか、倉庫群など各時代の建物が9棟残されています。離れや築地堀の石垣など大変贅沢な造りとなっています。(敷地内はイベント時のみ公開)



5

深川神社

奈良時代に創建されたといわれています。入口正面の拝殿には瀬戸で作られた緑釉瓦が葺かれ、美しい風景を演出しています。本殿は諏訪の立川流の名匠立川和四郎富昌による造営です。境内には瀬戸陶業の祖と伝えられる加藤四郎左衛門景正(藤四郎)を祀る近代和風の意匠を凝らした陶彦社や、市の指定文化財である永享年銘梵鐘や織部燈籠などがあります。また、藤四郎作と伝えられる国の重要文化財の「陶製狛犬」も展示されています(拝観有料)。



6

瀬戸永泉教会礼拝堂(国登録文化財)

明治33(1900)年に、キリスト教プロテスタント長老派の中心的建物として建設されました。明治期の木造平屋建ての教会建築が改築・移築されずに現存する例は愛知県内でも数例で、和洋折衷のトラス構造やステンドグラスなどが大変貴重です。



7

新世紀工芸館

展示棟・交流棟・工房棟からなり、作品展示や研修生の制作風景を見学できるほか、作家の器で飲み物を楽しめるコミュニティルームや作品を購入できるギャラリーがあります。展示棟は大正3(1914)年に建てられ、後に現在の場所に移築された「旧瀬戸陶磁器陳列館」を再現したものです。

開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
休館日 毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始、年6回程度館内清掃・点検のため正午まで休館
入館料 無料

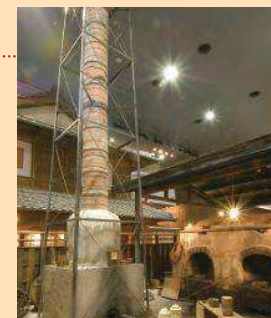


8

瀬戸蔵ミュージアム

ミュージアムの2階は、20世紀の瀬戸の建物を復元したゾーンとなっています。動力化によってモーターが導入された工場や石炭窯のほか、せともの輸送に欠かせなかった名鉄瀬戸線の「せとでん」や、大正時代から平成13(2001)年まで使われた尾張瀬戸駅旧駅舎も再現されています。

開館時間 午前9時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
休館日 月1回程度臨時休館、年末年始
入館料 一般500円、高校・大学生・65才以上の方300円中学生以下・障害者手帳をお持ちの方・妊婦の方は無料※20名以上は団体割引あり



歴史ある建物を巡るコース

- 駐車場 トイレ
- インフォメーション
- 近代風景撮影ポイント

モデルコース

所要時間：2～3時間

お楽しみ

```

    graph TD
      1[1 丸一国府商店] -- 200m / 3分 --> 2[2 久米邸]
      2 -- 250m / 3分 --> 3[3 無風庵]
      3 -- 200m / 3分 --> 4[4 旧山繁商店]
      4 -- 200m / 3分 --> 5[5 深川神社]
      5 -- 400m / 6分 --> 6[6 瀬戸永泉教会礼拝堂]
      6 -- 450m / 6分 --> 7[7 新世紀工芸館]
      7 -- 250m / 3分 --> 8[8 瀬戸蔵ミュージアム]
  
```



155

248